

第2回国際公開セミナー

平成29年2月17日に国立民族学博物館で「北東アジア農村社会の持続可能性ーモンゴル牧畜社会を事例に」と題して、第2回国際公開セミナーを開催いたしました（使用言語：日本語、モンゴル語）。ドイツ（発表者）とモンゴルよりモンゴル人研究者2名のほか、総研大院生、外部研究者など、計10名で行われました。

本拠点の辛嶋博善研究員が「モンゴル牧畜社会の持続可能性」として趣旨説明を行い、ベルリン・フンボルト大学のA. ガンチメグ講師が「伝統的遊牧のライフスタイルを維持するーモンゴルの牧畜民の直面する課題」として発表を行いました。ガンチメグ講師は、聞き取り調査から得られたデータを基に、モンゴル国の牧畜社会における現状と牧畜社会の維持の可能性について発表しました。草原の劣化や鉱山開発という近年の話題のほか、女性が世帯主となっている牧畜民世帯の事例や家畜による生計維持の可能性など現在のモンゴル国の牧畜社会の現状が示されました。モンゴルのみならず、隣接地域であるカザフスタンとの比較した議論が繰り広げられました。